

1 背景とねらい

日本短角種子牛のピロプラズマ病予防対策のねらいは、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることにあり、そのためには、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上が重要である。本対策は、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。本対策は、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。

2 技術の内容

(1) 供試牛：畜試外山分場産の日本短角種(春産子)88頭と小石川放牧地に
 (2) これらの成績をアセスメントし、この成績を基に、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。

3 指導上の留意点

(1) 本剤のみが効果的であること、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。
 (2) 本剤のみが効果的であること、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。
 (3) 本剤のみが効果的であること、放牧地での増産を促進し、畜産の発展を図ることを目的とし、放牧地の改良と、牛の健康管理の向上を目的とする。

4 参考資料

- (1) 石原忠雄 日獣会誌 30 1971
- (2) 岩田明 日獣会誌 29 1976
- (3) 淵向正四郎 日獣会誌 31 1977
- (4) 中野省三 日獣会誌 24 1971
- (5) 大野光男 日獣会誌 17 1964
- (6) 沢野宏四郎 日獣会誌 9 1978
- (7) 高橋清志 他 日獣会誌 9 1984
- (8) 千葉厚二 他 日獣会誌 9 1979
- (9) 山口純二 他 日獣会誌 9 1973

5 試験成績

表-1 平均HtとDGの相関

DG		放牧期間	5～6月	6～7月	7～8月	8～9月	9～10月	
入牧迄のDG			0.027	0.291	0.293	0.011	0.107	0.024
Htの平均	5～8月		0.335	—	—	0.529 ※※	0.232	0.126
	6～8月		0.274	—	—	0.497 ※※	0.216	0.147
	6～7月		0.334	—	0.328	0.587 ※※	0.223	0.144

※※ P < 0.01

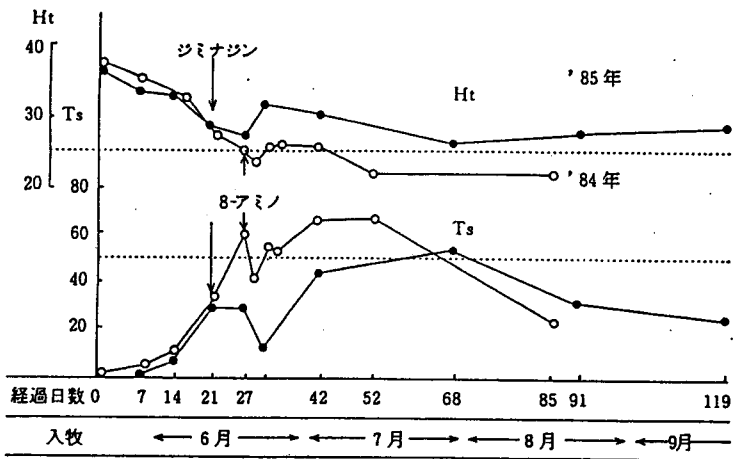


図-1 ジミナジンと8-アミノキノリン製剤1回投与によるHtとTsの比較

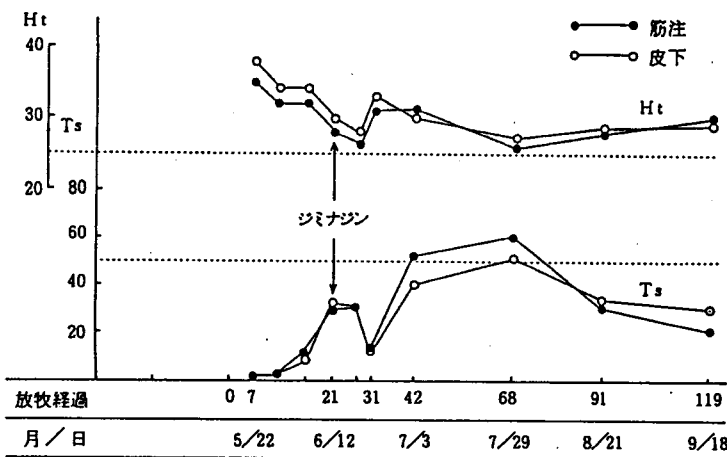


図-2 抗原虫剤投与部位別HtとTsの推移

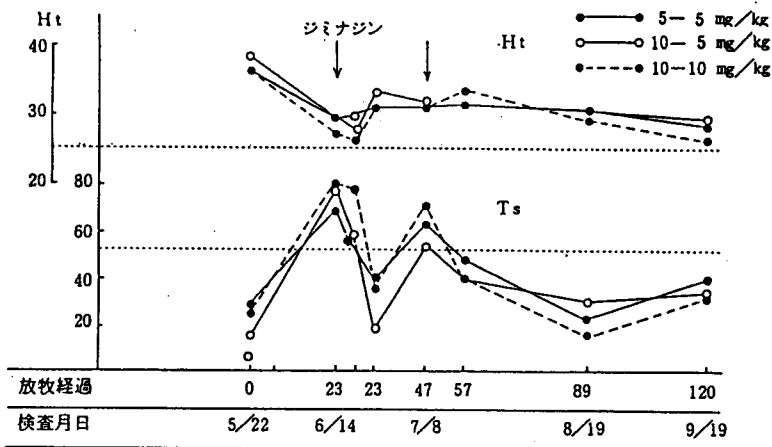


図-3 投与量の異なるグループ間のHtとTs推移

表-2 一般放牧牛(小石川)の月別貧血牛の発生頭数 (頭数・%)

区分	6月			7月			8月			
	'84	'85	'86	'84	'85	'86	'84	'85	'86	
放牧頭数	156	166	101	142	161	98	-	157	96	
Ht	21.5~23	18	17	11	26	35	19	-	6	2
	19.5~21	7	4	7	13	16	2	-	1	2
	17.5~19	7	4	1	17	4	5	-	1	3
	17以下	0	1	0	16	2	0	-	0	0

'85年8アミノキノリン製剤投与
'85'86年ジミナジンアセチレート製剤
2回投与